

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : Wellesley College

留学期間 : 平成 25 年 8 月 21 日 ~ 29 年 5 月 26 日

【大学 4 年目：春学期】早くもウェルズリー大学最後の学期が終わりました。今学期は今までやってきたことをすべて悔いなく終わらせよう！という気持ちで教育実習や研究、ジャパン・クラブでの活動に励みました。卒業後の予定についてとても悩まされたり、4 年間での成長を振り返ったりすることも多くなり、これからの生活と今までの生活についてたくさん考える大切な学期でもありました。

【教育実習】アメリカでは教育実習の期間が日本より長く、私は 1 月から 5 月まで実習をしました。私がお世話になったローレンス小学校はボストン近辺にある公立の学校です。公立の学校でありながらも、ローレンス小学校には日本から引っ越ししてくる生徒が多く、千羽鶴を折って原爆ドームへ送るイベントを毎年開催したり、お雛様・鯉のぼりなどが校内に飾ってあったりする学校でした。私はこのような環境で日本人の生徒や英語を第二言語として学んでいる ELL (English Language Learner) の生徒を支援したいことから、この学校で教育実習をすることを決めました。私が実習をした 1 年生の教室にも東京から引っ越ししてきた生徒が数人いました。私自身、カリフォルニア州で生まれ育って平日には現地校、土曜日には日本語補習校に通う生活を高校一年生まで続けたので、日本人生徒・ご家族の悩み事などを心から聞くことができました。日本へ帰国することが決まった家族を支援したり、アメリカに住みながら英語の習得・日本語の維持に悩む生徒のご家族とお話したりすることができ、教育実習の期間が 5 か月しかなかったものの、日本とアメリカの架け橋になれた気がして嬉しかったです。このようなやり甲斐を感じたからこそ、教育実習の辛い経験を乗り越えることができましたように感じます。

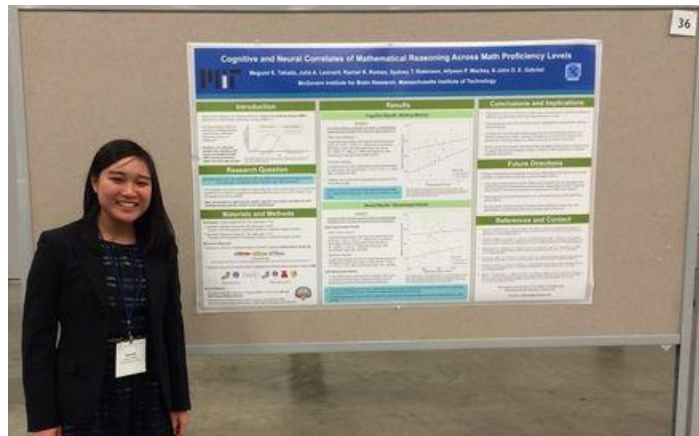
アメリカの教育界は白人社会とも言われており、アジア系の先生、特に日系の先生がとても少ないのが現状です。このような現状の中で日本人としてアメリカで教員免許をとるのは悩まされることも多く、自信をなくすこともありました。しかし、生徒のために、ということをいつも心掛けるようにし、諦めずに頑張りました。また、私の大学からローレンス小学校まで行くには 1 時間に 1 本しかない電車に乗る必要があり、毎日朝の 4 時半に起きる生活をしました。

ジャパン・クラブなど、大学での活動も夜遅くにあったので、大変でした。3 月までは雪が降る日もたくさんあり、まだ外が暗い中、車もほとんど走っていない雪道を歩いて小学校まで通うのは辛かったです。さらに、大学で教育実習をしている生徒は 10 人ほどだったので、教育実習の辛さやその状況を分かちあう友達も少なく、寂しく感じる日もありました。このようにいろいろと経験した 5 か月ではありましたが、5 月の初めには教育実習が無事終わり、去年の夏から受けてきた 4 種類の教員免許の試験にもすべて合格することができました。あとはマサチューセッツ州から免許が送られてくるのを待つだけです。



5月の「子供の日」に向けて、鯉のぼりが飾られていました。

【研究】2015年の夏から始めたマサチューセッツ工科大学（MIT）での研究も教育実習と並行して頑張りました。この学期の大きな目標は4月にテキサス州で行われる Society for Research in Child Development Conference という発達心理学の学会で発表することでした。この有名な学会で発表するのを目標に、去年の夏から必死で研究の分析に励んでいました。去年の8月に学会発表の応募をし、12月に学会で発表できることがやっと決まりました。私の研究室にはたくさんの大学院生がいるので、学部生で学会に行っても、大学院生の下で研究の発表をしたり、補助にまわされたりすることが多いです。しかし、私には分析を初め、ポスター作りまで一人でやらせてくれました。ポスターのドラフトを始めて見ていただいた時には、指摘をたくさん受けましたが、何回も内容を書き直し、出発する数日前に納得できるポスターをやっと完成することができました。慌てて印刷したポスターを片手にテキサス州へ出発！少しホッとした気分で空港に行きましたが、乗り換え先のアトランタ市で竜巻が発生…。案内版を見ると、アトランタ行きの便が次々とキャンセルされて行き、涙が出そうになりました。学会は3日間ありましたが、私が発表する日は学会初日の午前中でした。変更可能な便の中で、その発表時間に間に合うものは一つもなかったのです。学会で発表する夢を諦めたくなかったので、発表時間に間に合う便を思い切って買い直すことにしました。次の日、このポスター・セッションの15分前に会場へ着き、無事発表することができました。私の発表を聞きに大学院生や教授が次々と訪れました。たくさん研究をされてきたこのような人達の前で発表するのはとても緊張しましたが、この緊張は「楽しい」緊張感でした。聞いてくださった質問やいただいたコメントはすべて貴重なものであり、とても勉強になったのです。発表を終え、想像を超える刺激をたくさんいただいたことに気づき、今後も研究の道へ進みたい、と強く思いました。学会後、ウェルズリー大学の教授に学会での経験を報告したついでに、飛行機の事情も話したところ、大学から支援金をさらにいただくことになり、最終的には学会費・食費・宿泊費・交通費すべて出してもらいました。MITの研究室での日々もこの学会で終わってしまいましたが、将来また研究室で働けるのを楽しみにしています。



Society for Research in Child Development の学会での発表（テキサス州）

【ジャパン・クラブ】ジャパン・クラブの会長として、今学期もキャンパス中に日本文化を広める活動をしました。2 月には「雪祭り」と言って、毎年ジャパン・クラブが開催する最大イベントを今年も主催しました。ジャパン・クラブの実行委員には雪祭り委員がいるので、この雪祭り委員と私で実行委員の残り 11 人を動かしました。今回の雪祭りに来ていただいた人は 600 人と、過去最大人数でした！ウェルズリー大学に通う生徒は全員で 2500 人ほどなので、600 人も来ていただいたことをとても嬉しく思っています。600 人分の食べ物（お寿司・かき氷・豚カツ・どら焼き・カレーなど）を用意したり、参加者に楽しんでもらえるパフォーマンス（コーラス・太鼓・盆踊り・モダンダンス・日本舞踊・ファッション・ショーなど）を披露したりするのは下準備がたくさん必要で大変でしたが、これほどの人に楽しんでもらって、日本文化をこのように紹介できたのはとてもやり甲斐を感じるものでした。高校の時はクラス委員にもなる勇気がなかったほど人見知りでした。まだこのような性格が少し残っているとは思いますが、このような大イベントを仕切る経験を大学生活中にできたことは私自身の成長にもつながったように感じています。今年の雪祭りのパフォーマンスは YouTube をご覧ください。<https://www.youtube.com/watch?v=RzkbrEYOYDQ>

【卒業式】卒業式が行われる週は謝恩会や表彰式などにたくさん参加しました。学年で 10%ほどの学生にしか与えられない Phi Beta Kappa という賞をもらうことができました。この賞というのはアメリカで一番歴史のある成績優秀者の友好会であり、そのメンバーに加わったのです。卒業式の英訳は一般的に Graduation ですが、大学の卒業式は Commencement と言われることが多いです。Commencement というのは「始まり」という意味があります。アメリカではこのように、卒業式のことを「始まり」と言い、卒業後の生活が始まることを祝う思いが込められているのです。アメリカの大学の卒業式には Commencement Speaker と言って、有名な方が卒業生のためにスピーチをしてくれます。今回、私たちの Commencement Speaker として選ばれたのはヒラリー・クリントン国務長官でした。今回はまさに選挙直後というタイミングでクリントン国務長官が招かれたのです。ウェルズリー大学の学生として、今回の選挙によって考えさせられることはたくさんあったので、大学生としての最後の日に彼女のスピーチを聞くことができて幸せでした。「何回転んでもいつも立ち上がれ。」ウェルズリー大学の motto でもある「仕えられるよ

りも仕えなさい。」彼女からのメッセージは卒業後もいつも心掛けよう、と思いました。また、今回の卒業式に向けて、両親も大学に初めて来てくれました。4年前、両親と一緒に引っ越ししてくる生徒が多かった中、一人でいろいろと準備をしていたのを覚えています。自分の意志でアメリカの大学に進学することを決めたので、この時に寂しかった思いはあまりありません。しかし、先月、両親にウェルズリー大学やマサチューセッツ工科大学をやっと見せることができ、本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。この4年間、ウェルズリー大学で経験したことは一生の宝物だと私は思います。この経験ができたのはやはり両親のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

【大学後の予定】大学後、私はアメリカのフルブライト奨学金を通して、1年間韓国で英語を教えることになりました。アメリカでは、大学卒業後に就職したり、大学院に進んだりする学生もいますが、1年間フェローシップという奨学金をとって、新たな経験に挑戦する学生もたくさんいます。私はこのフルブライト・フェローシップを通して、教師としての自分を磨き、最終的には研究者として大学院に進学できたらと思っています。一時期、大学院に直接進学しようと思い、ハーバード教育学部のドクター・プログラムに入ることも考えていました。今振り返ると、研究の道に直接行かなくて良かったと思います。大学院に応募したのは、去年の終わりであり、その時には本格的に教育実習は始まっていませんでした。私は教育実習を通して辛い経験もたくさんあった中、教師にしか経験できない最大のやり甲斐を感じることができました。また教育関係の研究をしていく上で、先生としての実体験がどれだけ大切かもわかりました。韓国での1年間、先生としての自分を極め、大学院で勉強したいことをより突き詰めることができたらと思っています。楽しみにしています。